

# ジャッジの迷いを成長の糧に。

公平な目でシャトルを追う審判コーチングの極意



THE UMPIRE'S TACTICAL DASHBOARD // PHOENIX-AICHI REPORT

## JUDGMENT ANALYTICS MATRIX

判定精度  
98.5% ↗

反応速度  
0.12s

視野範囲  
120°

ストレス耐性  
HIGH

## ACTIVE FOCUS ZONES

ON

	NET AREA	
	MID-COURT	BEAR COURT

## COACHING ALERTS

ALERT: 境界線判定に注意

- ラインズマン連携
- 角度確認
- 瞬時判断

## GROWTH TRACKER

NEXT LEVEL: ELITE UMPIRE 75%

CURRENT: ADVANCED - 450 MATCHES LOGGED

SYSTEM: PHOENIX-AICHI OS v4.2.1 | CONNECTION: STABLE | BATTERY: 88%

OLD



NEW

## コントロール (取り締まり)



## 審判の本質は 「選手を縛る鎖」ではなく 「守る盾」である

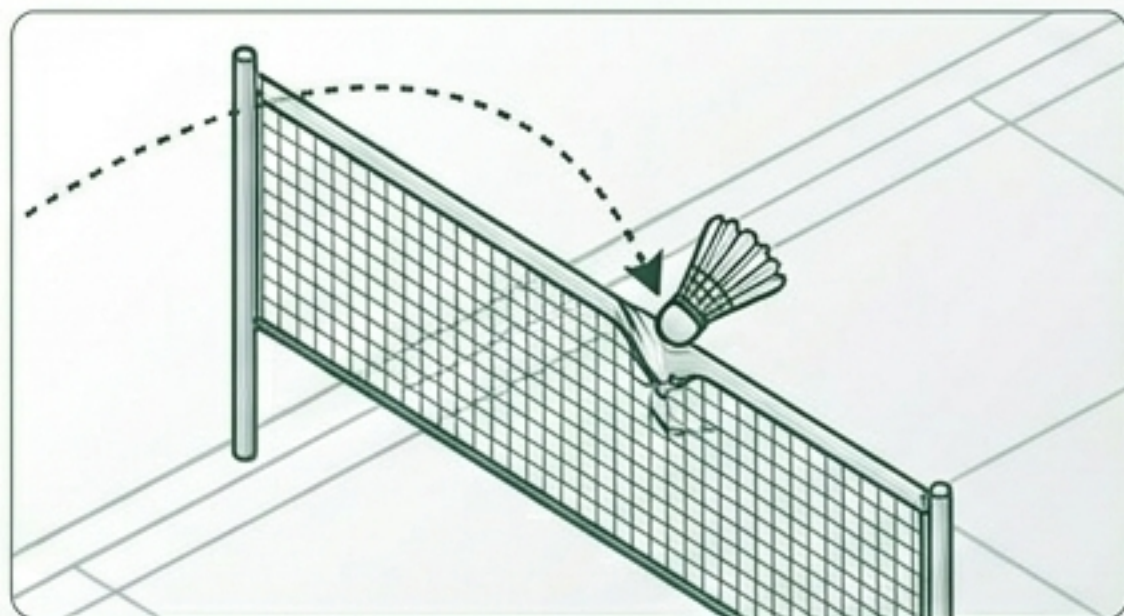
- 審判の最大の使命は、厳格な取り締まりではありません。  
選手が安全かつ公平に、安心して全力を尽くせる舞台（環境）を整えることです。
- 競技規則を正確に運用する知識こそが、選手に無駄な不安を与えない最大の誠実さとなります。

## 環境づくり (選手ファースト)



# 診断マトリックス：ネットに刺さったシャトルの真実

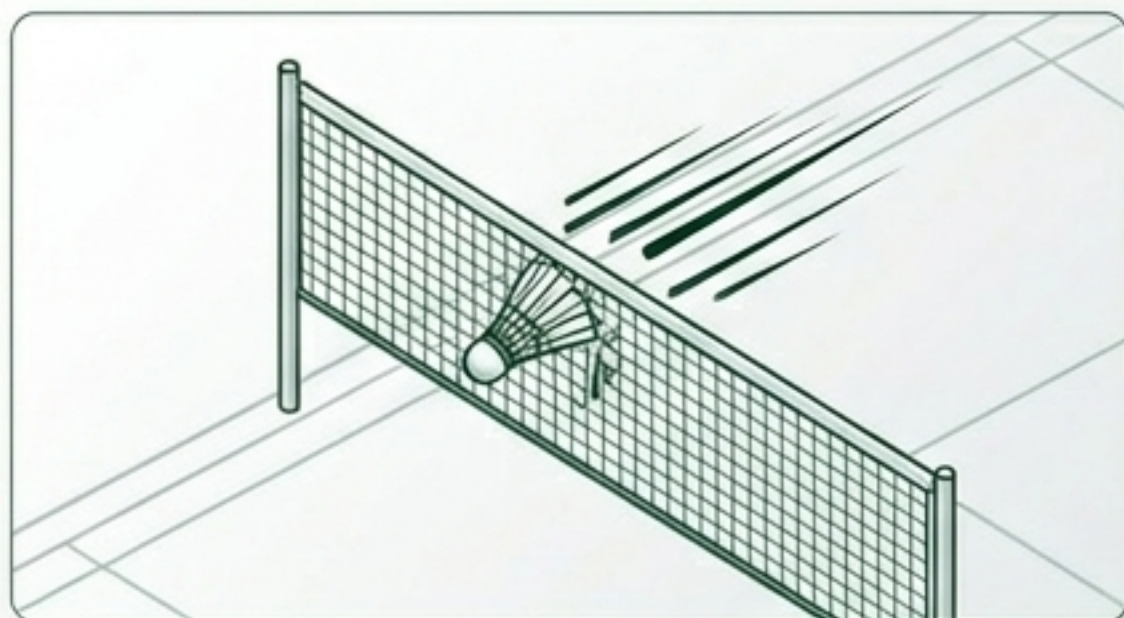
状況: サービス時



判定: フォルト

論理的根拠: 「正しいエリア（レシーバーのコート）に落ちなかった」という事実が優先されるため。

状況: ラリー中

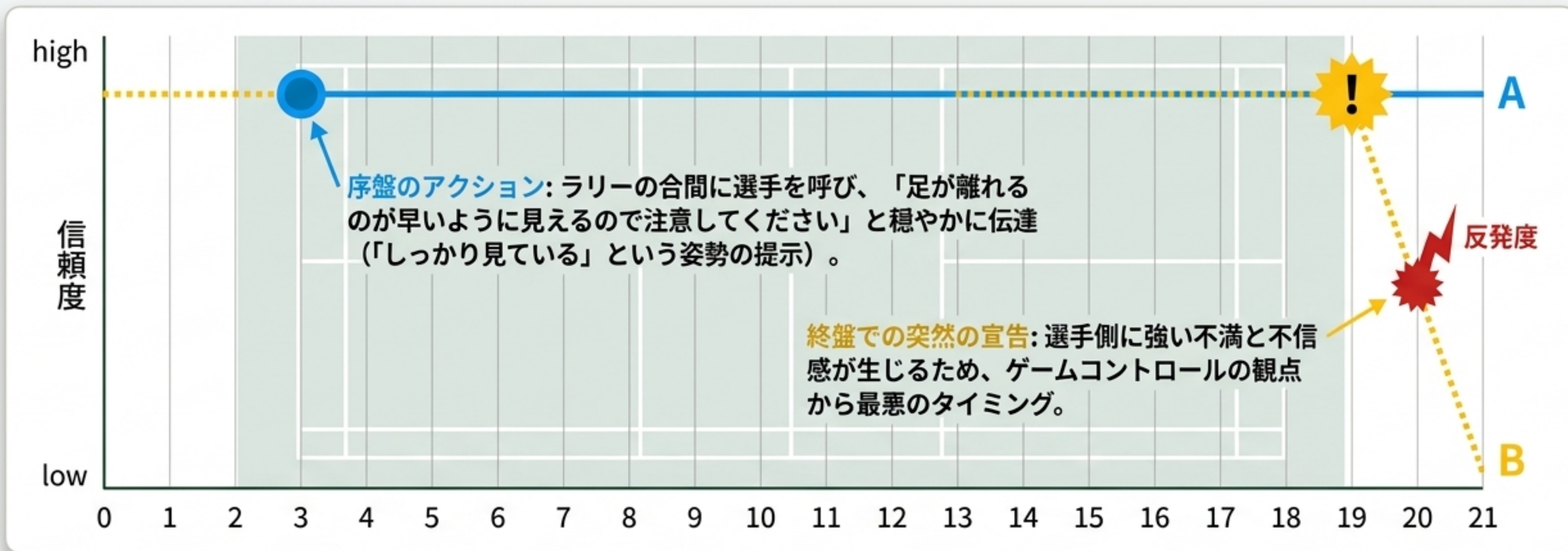


判定: レット

論理的根拠: 相手選手は物理的にシャトルに触ることも、打ち返すことも不可能な状態であるため。

# コミュニケーション・タイムライン：フットフォルトへの心理戦

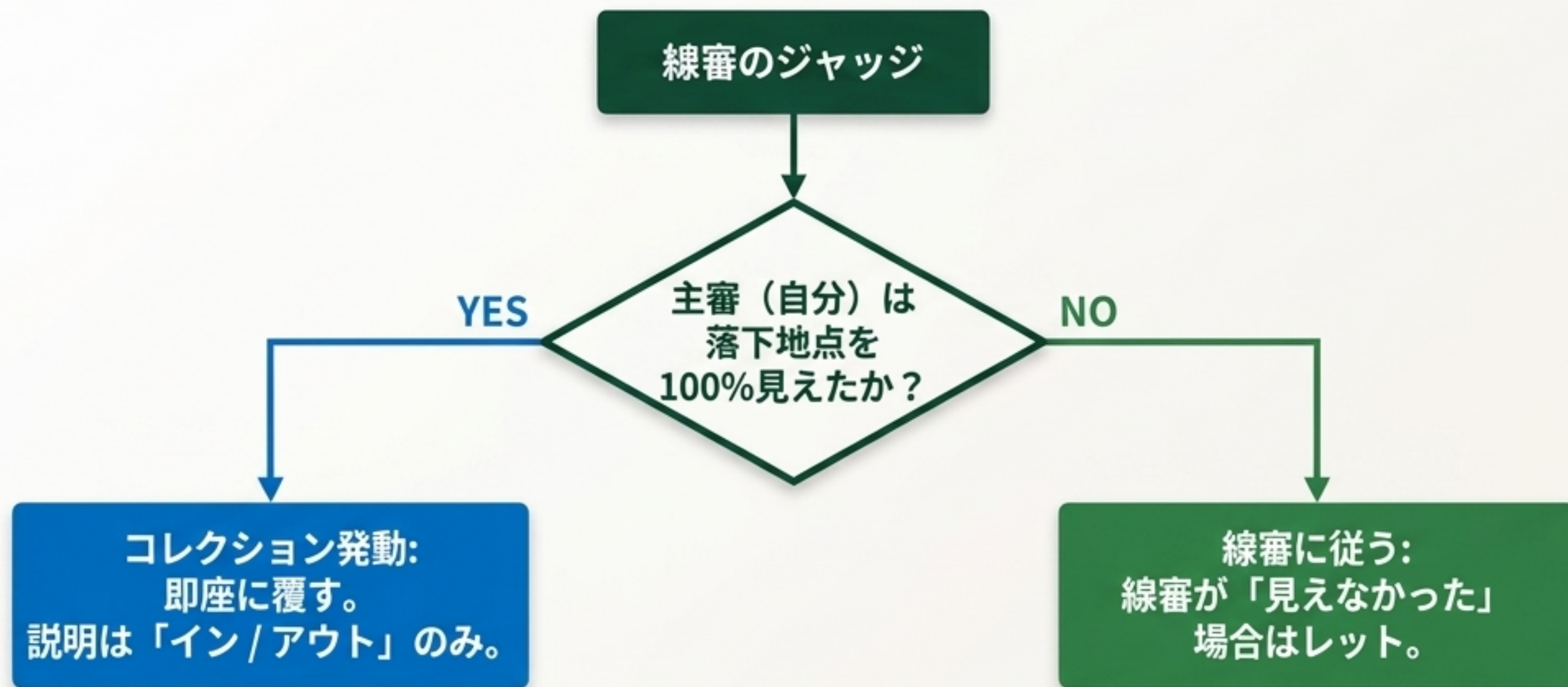
早期の穏やかな対話が信頼を生む。



## プレイヤー側の対応

感情的に抗議するのではなく、まずは線審に「サービス周りの基準」を丁寧に質問する。

# コレクションの鉄則：意思決定フローチャート



**【厳禁】** 選手に詰め寄られてから判定を覆すこと。「コルクが線をかすっていたから」などの余分な説明は、さらなる反発と混乱を招くため絶対に行ってはならない。確信とシンプルさが鉄則。

# 境界線の見極め：選手の安全配慮 vs 悪質な時間稼ぎ

## 選手の安全



【原則1回目は許可】国際大会での緊急搬送事例を契機に、現代バドミントンでは選手の健康が最優先。「短時間でお願いします」と添えて許可する。

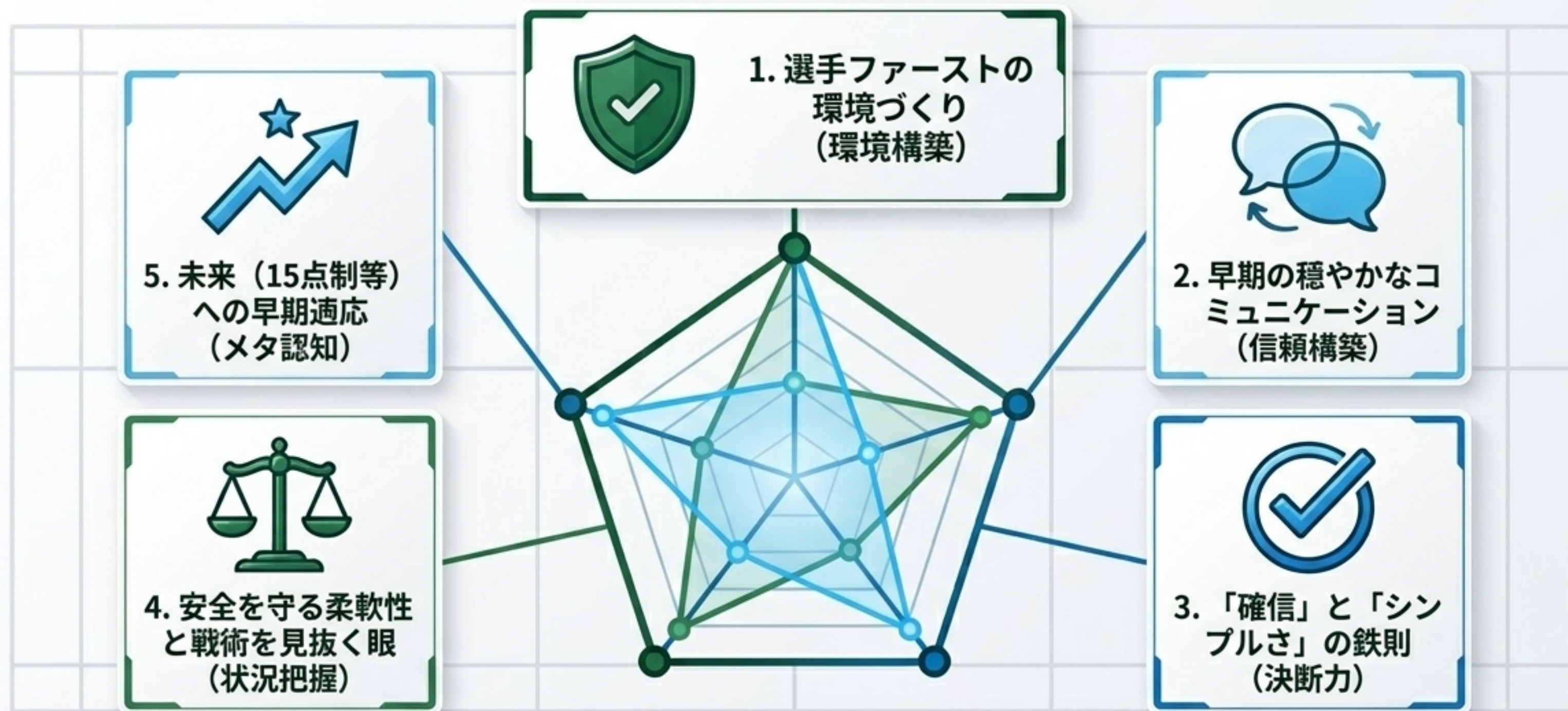


## 戦術・時間稼ぎ



【イエローカード対象】両選手が交互にリクエストを繰り返す、または意図的に床に汗を塗りつけてモップを要求するなど、合法的に時間を稼ぐ悪質な戦術に対しては、冷静な目で見極め毅然と対応する。

# 審判視点で鍛える「5つのコーチング的学び」

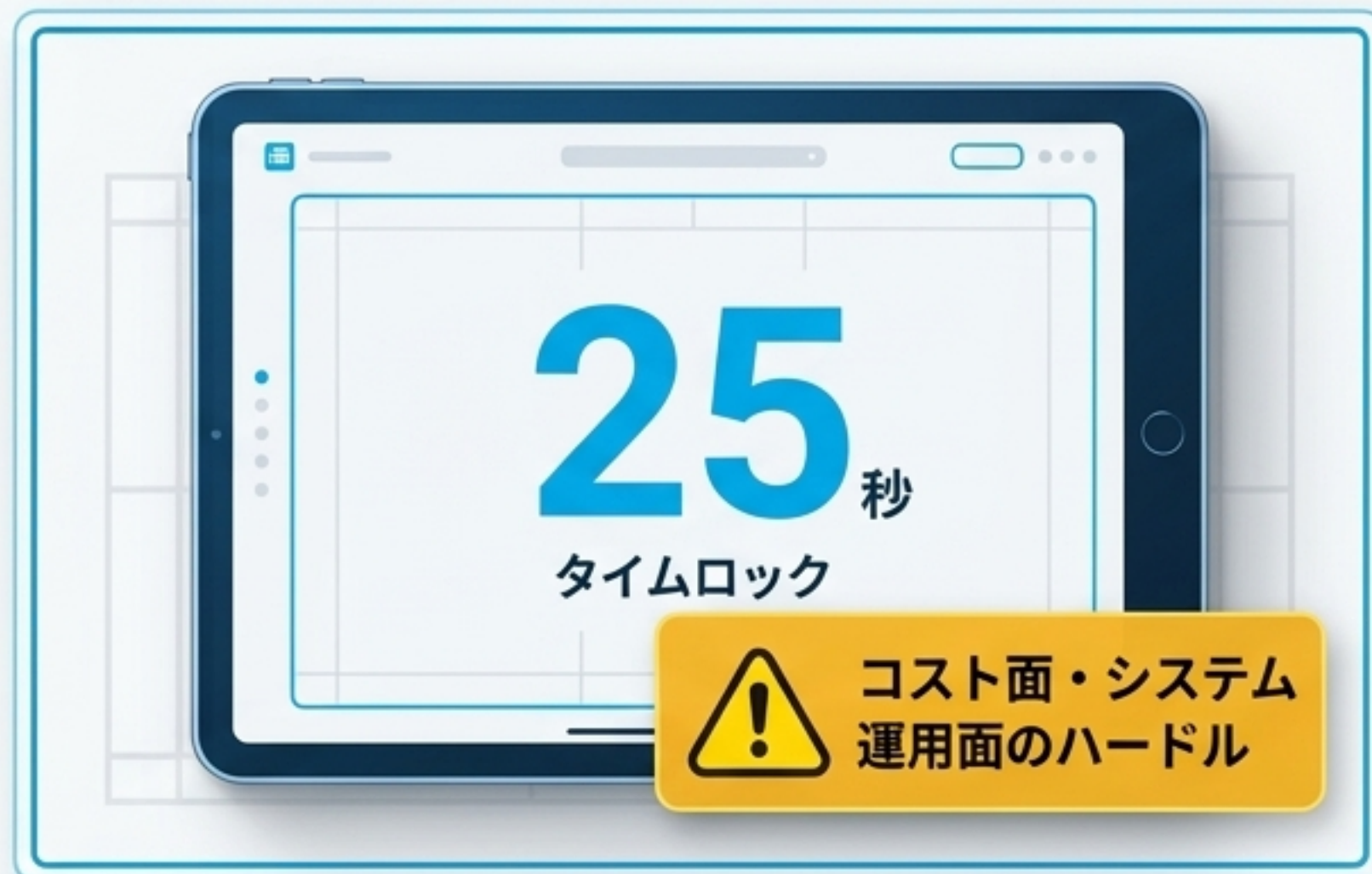


審判の視点を持つことは、単なるルールの暗記ではない。  
コート全体を俯瞰し、ゲームの裏側にある意図を読む「メタ認知能力」の獲得である。

# デジタル審判とタイムロック（25秒ルール）の未来

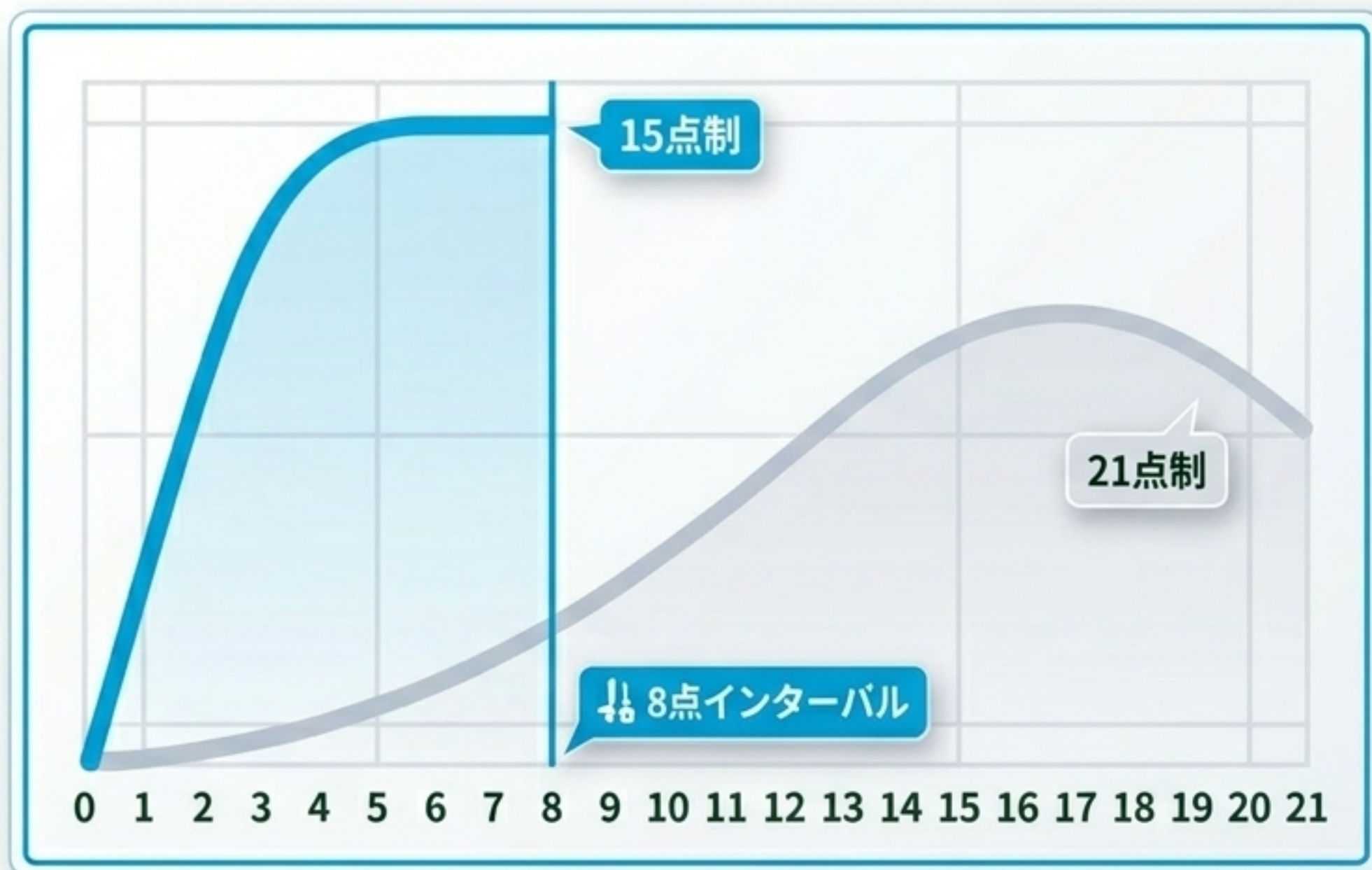
試合進行の迅速化を狙う「25秒ルール」だが、日本バドミントン協会事業本部長は2026年度の全面導入見送りを明言。

全コートへのタブレット・カウントダウン機能の実装は、コスト面とシステム運用面でハードルが極めて高い。まずは条件の整った大型大会から試験導入へ。将来的なAI連動計測が審判の負担軽減の鍵となる。



# 戦術的シフト：15点制時代がもたらすゲーム支配の構造

2027年4月の正式導入に向け、展開の速い15点制では「序盤（最初の5点）での主導権獲得」が勝敗に直結する。8点でのインターバル対応を含め、スタートダッシュの意識が不可欠。



## 先行実施対象大会

- ✓ ・全日本ジュニアバドミントン選手権
- ✓ ・全日本シニアバドミントン選手権
- ✓ ・全日本総合バドミントン選手権
- ✓ ・S/Jリーグ

⚠ (※全日本社会人大会は来週のみ  
21点制維持予定)

# The Ultimate Action Checklist：明日から使える実践リスト

## コミュニケーション (Communication)

- ✓ 疑わしいフットフォルトに対し、序盤のラリーの合間に穏やかに注意を促したか？
- ✓ ジャッジの説明は「イン/アウト」のみでシンプルに完結させたか？

## ジャッジと対応 (Judgment)

- ✓ コレクションは、自分の明確な100%の目視確認に基づき、即座に発動したか？
- ✓ 汗拭き要求に対し「一回目は許可・短時間で」の原則と、悪質な時間稼ぎを見極めたか？

## メタ認知 (Meta-Cognition)

- ✓ 相手の違反時、感情的にならず、まずは線審に「基準」を丁寧に質問したか？
- ✓ 15点制の正式導入を見据え、ゲーム序盤の入り方を意識して練習しているか？

## 最後に

“

「ルールを知ること、ゲームを制し、  
己の成長を制すること。」

”

一見するとプレーを制限するように思える競技規則も、その本質はプレイヤーが安心して全力を尽くすための「盾」です。ルールの裏にある意図を読み解き、審判の視点（メタ認知）を持つこと。その能動的な適応こそが、未来のバドミントンコートであなたを優位に導く最大の武器となります。

